



# OpenManage Integration for VMware vCenter バージョン 3.2 互換性マトリックス

## メモ、注意、警告

 **メモ:** メモでは、コンピュータを使いやすいするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** 注意では、ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その問題を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 警告では、物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

<b>章 1: 概要</b> .....	<b>4</b>
プロビジョニングされたストレージに必要な容量.....	4
デフォルトの仮想アプライアンスの設定.....	4
その他の必要マニュアル.....	4
<b>章 2: サポートされているリソース</b> .....	<b>5</b>
ブラウザと Flash Player の要件.....	5
BIOS、iDRAC、Lifecycle Controller のバージョン .....	5
ポート情報.....	7
OpenManage Integration for VMware vCenter 要件.....	9
管理対象ホスト上のサポートされている ESXi バージョン.....	9
Dell PowerEdge シャーシでサポートされる機能 .....	10
PowerEdge サーバーでサポートされる機能.....	10
<b>章 3: 重要なメモ</b> .....	<b>12</b>

# 概要

本書には、お使いの *OpenManage Integration for VMware vCenter* ( OMIVV )、および *OpenManage Integration for VMware vCenter* ソフトウェアに付属するその他すべての技術マニュアルに対するアップデートされた情報が記載されています。

*OpenManage Integration for VMware vCenter* 3.2 は、現在、以下の機能をサポートしています。

- VMware vCenter Server バージョン 6.0 U3
- VMware ESXi バージョン 6.0 U3
- PowerEdge R830 プラットフォーム
- OpenManage Server Administrator ( OMSA ) バージョン 8.5

## トピック：

- [プロビジョニングされたストレージに必要な容量](#)
- [デフォルトの仮想アプライアンスの設定](#)
- [その他の必要マニュアル](#)

## プロビジョニングされたストレージに必要な容量

OpenManage Integration 仮想アプライアンスには、プロビジョニングされたストレージ用のディスク容量 43.5 GB が必要です。

## デフォルトの仮想アプライアンスの設定

OpenManage Integration 仮想アプライアンスは、8 GB の RAM と 2 個の仮想 CPU でプロビジョニングされています。

## その他の必要マニュアル

次の vSphere Desktop および Web Client 用マニュアルのリストについては、[ [dell.com/support/manuals](http://dell.com/support/manuals) ] にアクセスしてください。

- 『*Dell OpenManage Integration for VMware vCenter 3.2 User's Guide for Desktop client*』 ( Desktop Client 向け Dell OpenManage Integration for VMware vCenter 3.2 ユーザーズガイド )
- 『*Dell OpenManage Integration for VMware vCenter 3.2 Installation Guide for Desktop client*』 ( Desktop Client 向け Dell OpenManage Integration for VMware vCenter 3.2 インストールガイド )
- 『*Dell OpenManage Integration for VMware vCenter 3.2 User's Guide for Web client*』 ( Web Client 向け Dell OpenManage Integration for VMware vCenter 3.2 ユーザーズガイド )
- 『*Dell OpenManage Integration for VMware vCenter 3.2 Installation Guide for Web client*』 ( Web Client 向け Dell OpenManage Integration for VMware vCenter 3.2 インストールガイド )
- 『*Dell OpenManage Integration for VMware vCenter 3.2 Release notes*』 ( Dell OpenManage Integration for VMware vCenter 3.2 リリースノート )

## サポートされているリソース

本章には、OpenManage Integration for VMware vCenter をサポートするリソースに関する情報が記載されています。

### トピック：

- ブラウザと Flash Player の要件
- BIOS、iDRAC、Lifecycle Controller のバージョン
- ポート情報
- OpenManage Integration for VMware vCenter 要件
- Dell PowerEdge シャーシでサポートされる機能
- PowerEdge サーバーでサポートされる機能

## ブラウザと Flash Player の要件

OpenManage Integration for VMware vCenter を表示するには、システムに最小 1024 x 768 の画面解像度と、オペレーティングシステムに基づく最小要件を満たすウェブブラウザが必要です。

- i** **メモ:** ブラウザと Flash Player の要件は、OpenManage Integration for VMware vCenter に対する VMware ガイドラインの通りです。対応ブラウザは、Microsoft Internet Explorer、Google Chrome、および Mozilla Firefox です。特定のブラウザバージョンについては、使用している vCenter バージョンの VMware のマニュアルを参照してください。
- i** **メモ:** Windows Server 2012 以降から OpenManage Integration for VMware vCenter にアクセスするには、デスクトップエクスペリエンス機能を有効にして Flash Player をアクティブにします。任意の ESXi ホストに OpenManage Integration for VMware vCenter (仮想アプライアンス) をインストールします。

表 1. vCenter Server バージョンに対する Flash Player の要件

vCenter バージョン	Flash Player のバージョン
v5.0 ~ v5.5	11.5.0 以降
v6.0 以降	16.0 以降

## BIOS、iDRAC、Lifecycle Controller のバージョン

OpenManage Integration for VMware vCenter の機能を有効にするには、次の BIOS、iDRAC、および Lifecycle Controller のバージョンが必要です。

OpenManage Integration for VMware vCenter を使用する前に、Server Update Utility (SUU)、Repository Manager、または Lifecycle Controller のプラットフォームを使用して、お使いのサーバーのバージョンを次のいずれかにアップデートすることが推奨されます。

表 2. Dell PowerEdge 第 11 世代 サーバー向けの BIOS<sup>th</sup>

サーバー	最小バージョン
PowerEdge R210	1.8.2 以降
PowerEdge R210II	1.3.1 以降
PowerEdge R310	1.8.2 以降
PowerEdge R410	1.9.0 以降
PowerEdge R415	1.8.6 以降
PowerEdge R510	1.9.0 以降

表 2. Dell PowerEdge 第 11 世代 サーバー向けの BIOS<sup>th</sup> ( 続き )

サーバー	最小バージョン
PowerEdge R515	1.8.6 以降
PowerEdge R610	6.1.0 以降
PowerEdge R710	6.1.0 以降
PowerEdge R710	6.1.0 以降
PowerEdge R715	3.0.0 以降
PowerEdge R810	2.5.0 以降
PowerEdge R815	3.0.0 以降
PowerEdge R910	2.5.0 以降
PowerEdge M610	6.1.0 以降
PowerEdge M610x	6.1.0 以降
PowerEdge M710HD	5.0.1 以降
PowerEdge M910	2.5.0 以降
PowerEdge M915	2.6.0 以降
PowerEdge T110 II	1.8.2 以降
PowerEdge T310	1.8.2 以降
PowerEdge T410	1.9.0 以降
PowerEdge T610	6.1.0 以降
PowerEdge T710	6.1.0 以降

表 3. Dell PowerEdge 第 12 世代 サーバー向けの BIOS<sup>th</sup>

サーバー	最小バージョン
T320	1.0.1 以降
T420	1.0.1 以降
T620	1.2.6 以降
M420	1.2.4 以降
M520	1.2.6 以降
M620	1.2.6 以降
M820	1.2.6 以降
R220	1.0.3 以降
R320	1.2.4 以降
R420	1.2.4 以降
R520	1.2.4 以降
R620	1.2.6 以降
R720	1.2.6 以降
R720xd	1.2.6 以降
R820	1.7.2 以降
R920	1.1.0 以降

表 4. Dell PowerEdge 第 13 世代 サーバー向けの BIOS<sup>th</sup>

サーバー	最小バージョン
R630	1.0.4 以降
T630	1.0.4 以降
R730	1.0.4 以降
R730xd	1.0.4 以降
R430	1.0.2 以降
R530	1.0.2 以降
T130	1.0.2 以降
T330	1.0.2 以降
T430	1.0.2 以降
R230	1.0.2 以降
R330	1.0.2 以降
M630	1.0.0 以降
M830	1.0.0 以降
FC430	1.0.0 以降
FC630	1.0.0 以降
FC830	1.0.0 以降
R830	1.0.0 以降

表 5. 導入用の iDRAC および Lifecycle Controller

世代	バージョン	
	iDRAC	Lifecycle Controller
Dell PowerEdge 第 11 世代サーバー	モジュラーには 3.35、ラックまたはタワーには 1.85	1.5.2 以降
Dell PowerEdge 第 12 世代サーバー	1.00.0 以降	1.0.0.3017 以降
Dell PowerEdge 第 13 世代サーバー	2.40.40.40 以降	2.40.40.40 以降

表 6. クラウドサーバーの BIOS と iDRAC の要件

モデル	BIOS	Lifecycle Controller 対応 iDRAC
C6320	1.0.2	2.20.20.20
C4130	1.0.2	2.22.22.20

## ポート情報

### 仮想アプライアンスと管理対象ノード

OpenManage Integration for VMware vCenter では、準拠 ウィンドウで利用できる *非準拠ホストの修正* リンクを使用して OMSA エージェントを導入するときに、OpenManage Integration for VMware vCenter が ESXi 5.0 以降による OMSA VIB のダウンロードとインストールのために、HTTP クライアントサービスの開始、ポート 8080 の有効化、およびポートの解放を行います。OMSA VIB インストールの完了後、サービスは自動的に停止し、ポートが閉じられます。

表 7. 仮想アプライアンス

Port Number (ポート番号)	プロトコル	ポートタイプ	最大暗号化レベル	方向	使用状況	設定可能
21	FTP	TCP	なし	出力	FTP コマンドクライアント	いいえ
53	DNS	TCP	なし	出力	DNS クライアント	いいえ
80	HTTP	TCP	なし	出力	Dell オンラインデータアクセス	いいえ
80	HTTP	TCP	なし	入力	管理コンソール	いいえ
162	SNMP エージェント	UDP	なし	入力	SNMP エージェント (サーバー)	いいえ
443	HTTPS	TCP	128 ビット	入力	HTTPS サーバー	いいえ
443	WSMAN	TCP	128 ビット	入力 / 出力	iDRAC/OMSA 通信	いいえ
4433	HTTPS	TCP	128 ビット	入力	自動検出	いいえ
2049	NFS	UDP/TCP	なし	入力 / 出力	パブリック共有	いいえ
4001 ~ 4004	NFS	UDP/TCP	なし	入力 / 出力	パブリック共有	いいえ
5432	Postgres	TCP	128 ビット	入力 / 出力	PostgreSQL	いいえ
11620	SNMP エージェント	UDP	なし	入力	SNMP エージェント (サーバー)	いいえ

表 8. 管理下ノード

Port Number (ポート番号)	プロトコル	ポートタイプ	最大暗号化レベル	方向	使用状況	設定可能
162、11620	snmp	UDP	なし	出力	ハードウェアイベント	いいえ
443	WSMAN	TCP	128 ビット	入力	iDRAC/OMSA 通信	いいえ
4433	HTTPS	TCP	128 ビット	出力	自動検出	いいえ
2049	NFS	UDP	なし	入力 / 出力	パブリック共有	いいえ
4001 ~ 4004	NFS	UDP	なし	入力 / 出力	パブリック共有	いいえ
443	HTTPS	TCP	128 ビット	入力	HTTPS サーバー	いいえ
8080	HTTP	TCP		入力	HTTP サーバー; OMSA VIB をダウンロードし、非標準 vSphere ホストを修正	いいえ
50	RMCP	UDP/TCP	128 ビット	出力	リモートメールチェックプロトコル	いいえ
51	IMP	UDP/TCP	なし	該当なし	IMP 論理アドレスメンテナンス	いいえ
5353	mDNS	UDP/TCP		入力 / 出力	マルチキャスト DNS	いいえ
631	IPP	UDP/TCP	なし	出力	インターネットプリンティングプロトコル (IPP)	いいえ

表 8. 管理下ノード ( 続き )

Port Number (ポート番号)	プロトコル	ポートタイプ	最大暗号化レベル	方向	使用状況	設定可能
69	TFTP	UDP	128 ビット	入力 / 出力	トリビアルファイル転送	いいえ
111	NFS	UDP/TCP	128 ビット	入力	SUN リモートプロシージャコール (ポートマップ)	いいえ
68	BOOTP	UDP	なし	出力	ブートストラッププロトコルクライアント	いいえ

## OpenManage Integration for VMware vCenter 要件

### 管理対象ホスト上のサポートされている ESXi バージョン

次の表は、管理対象ホスト上でサポートされている ESXi バージョンに関する情報を提供するものです。

ESXi バージョンサポート	サーバーの世代		
	第 11 世代	第 12 世代	第 13 世代
v5.0	はい	はい	いいえ
v5.0 U1	はい	はい	いいえ
v5.0 U2	はい	はい	いいえ
v5.0 U3	はい	はい	いいえ
v5.1	はい	はい	いいえ
v5.1 U1	はい	はい	いいえ
v5.1 U2	はい	はい	はい
v5.1 U3	はい	はい	はい (FC830、M830、および FC430 を除く)
v5.5	はい	はい	いいえ
v5.5 U1	はい	はい	いいえ
v5.5 U2	はい	はい	はい
v5.5 U3	はい	はい	はい
v6.0	はい	はい	はい
v6.0 U1	はい	はい	はい
v6.0 U2	はい	はい	はい
v6.0 U3	はい	はい	はい

### リリース 3.2 向けにサポートされている vCenter Server バージョン

OpenManage Integration for VMware vCenter は、次の vCenter Server バージョンのすべてと連動します。

vCenter バージョン	Desktop Client サポート	Web Client サポート
v5.1 U2	はい	いいえ
v5.1 U3	はい	いいえ
v5.5 U1	はい	はい
v5.5 U2	はい	はい
v5.5 U3	はい	はい
v6.0	はい	はい
v6.0 U1	はい	はい
v6.0 U2	はい	はい
v6.0 U3	はい	はい

### メモ:

vCenter Server の登録の詳細については、[dell.com/support/manuals](http://dell.com/support/manuals) にある『OpenManage Integration for VMware vCenter, Quick Install Guide v3.2』( OpenManage Integration for VMware vCenter クイックインストールガイドバージョン 3.2 ) を参照してください。

## Dell PowerEdge シャーシでサポートされる機能

本章には、Dell PowerEdge シャーシでサポートされる機能に関する情報が記載されています。

機能	M1000e	VRTX	FX2S
SNMP アラート	Y	Y	Y
ハードウェアインベントリ	Y	Y	Y
CMS のリンクと起動	Y	Y	Y
ライセンス情報	該当なし	Y	Y
保証情報	Y	Y	Y
正常性レポート	Y	Y	Y

## PowerEdge サーバーでサポートされる機能

次の機能は、OpenManage Integration for VMware vCenter によって管理されているホスト上でサポートされるものです。

Resource ( リソース )	プラットフォーム		
	第 11 世代	第 12 世代	第 13 世代
ハードウェアインベントリ	Y	Y	Y
イベントとアラーム	はい ( SNMP v1 のみ )	はい ( SNMP v1 および v2 )	はい ( SNMP v1 および v2 )
コンポーネント毎の正常性監視*	Y	Y	Y
BIOS / ファームウェアアップデート**	Y	Y	Y
保証情報	Y	Y	Y
ホスト準拠	Y	Y	Y
ベアメタルサーバーの自動 / 手動検出	Y	Y	Y

Resource (リソース)	プラットフォーム		
	第 11 世代	第 12 世代	第 13 世代
ベアメタル準拠	Y	Y	Y
ハードウェア設定	Y	Y	Y
ベアメタルハイパーバイザー導入	Y	Y	Y
サーバー LED の点滅	Y	Y	Y
SEL ログの表示 / クリア	Y	Y	Y
iDRAC のリンクと起動	Y	Y	Y
iDRAC のリセット	Y	Y	Y

\*モデル番号 C6320 のクラウドでは、メザニンカードの正常性監視はサポートされていません。

\*\*モデル番号 C6320 のクラウドでは、メザニンカードのファームウェアアップデートはサポートされていません。

## 重要なメモ

本項では、OpenManage Integration for VMware vCenter で作業しているときに考慮する必要がある重要情報について説明します。

- *OpenManage Integration for VMware vCenter* は、ターゲットサーバにハイパーバイザを展開する BIOS モードをサポートしています。ハイパーバイザプロファイルを適用する前に、参照ハードウェアプロファイルで BIOS モードが選択されていることを確認してください。ハードウェアプロファイルが選択されていない場合は、手動で起動モードを BIOS に設定し、サーバを再起動してからハイパーバイザプロファイルを適用するようにしてください。

**i** **メモ:** ハイパーバイザー導入がサポートされるのは Desktop Client のみです。

- 現在、*OpenManage Integration for VMware vCenter* はコミュニティ名「Public」または「public」のみをサポートしており、SNMP コミュニティ名を設定できません。別のコミュニティ名が使用されている場合、OpenManage Integration for VMware vCenter によってイベントが受信されないため、イベントは VMware vCenter には表示されません。
- 参照サーバの BIOS バージョンによっては、そのサーバで作成されたハードウェアプロファイルが展開失敗の原因となる場合があります。一部の BIOS バージョンは、内蔵 NIC1 および NIC2 設定などの特定の BIOS 設定に対して正確な情報を提供しません。ハードウェアプロファイルで最小の BIOS バージョンのサーバを参照サーバとして使用すると、それらのフィールドは UI および展開の両方によって無視されます。ただし、問題になっている設定に展開を正常に完了するための特定の値が必要な場合は、問題が発生することがあります。この問題のソリューションでは、最新の BIOS を搭載したサーバをハードウェアプロファイルの参照サーバとして使用します。

**i** **メモ:** 展開に使用されるサーバでは、BIOS もアップデートされている必要があります。BIOS に問題があるサーバに対して展開時に設定を適用しようとすると、展開が失敗します。現在、BIOS バージョンは、対応性についてチェックされませんが、サーバ準拠 ページには表示されます。影響を受けるハードウェアプロファイルを含む展開テンプレートを展開時に選択すると、ハードウェアプロファイル参照サーバ ページと BIOS 設定 ページに警告が表示されます。

- *OpenManage Integration for VMware vCenter* を VMware vCenter に登録するには、完全修飾ドメイン名 ( FQDN ) の使用を強く推奨します。FQDN ベースの登録では、vCenter のホスト名は DNS サーバによって適切に解決される必要があります。

**i** **メモ:** vSphere の DNS 要件の詳細については、以下を参照してください。

- [vSphere 5.5 の DNS 要件](#)
- [vSphere 6.0 の DNS 要件](#)